

ファイブ・ミニッツ・プロジェクト

— 5分間で見る世界の女性 —

昨年、北京で開催された世界女性会議に向けて、「女性とメディア」に関わる女性たちによる一大プロジェクトが企画され、実現しました。21カ国の女性プロデューサーが「開発・平等・平和」をテーマに各国のホットなジェンダー問題を5分間で描いた作品集です。今回、大阪府でこの日本語版を企画・製作しました。ビデオ上映と併せて、作品の感想や女性による映像表現などについて語り合う座談会を行います。

《ビデオ上映》

① 10:00~12:00

② 12:30~14:30

③ 17:00~19:00

《座談会》

14:30~16:00

発言者	林 千章	(読売新聞大阪本社社会情報部主任)
	吉田 清彦	(フリーライター)
	伊藤 ふさ	(ビデオ工房AKAMEスタッフ)
コーディネーター	田上 時子	(ドーンセンター事業担当コーディネーター)

と き : 平成9年1月18日(土)

- ◆会場 ドーンセンター5F 視聴覚スタジオ
- ◆定員 各85名
- ◆保育 あり(1週間前までに要予約) *対象: 1歳6カ月以上就学前
- ◆申込み 電話

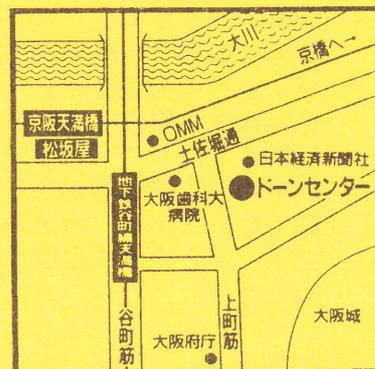
入場無料

申込み・お問い合わせ先

ドーンセンター情報ライブラリー

〒540 大阪市中央区大手前1-3-49

☎ 06-910-8616



京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅
 から徒歩約5分
 市バス京阪東口からすぐ

PART 1 アジア

「息子」(インド)

娘により良い人生を一。母の願いのもと、彼女は男の子として育てられた。

「地雷—そこにある恐怖」(カンボジア)

カンボジアの大地には国民の数にも勝る地雷が埋まっている！ 怒りの声を上げたのは、女たちだった。

「ヒロシマの50年」(日本)

原爆の惨禍を次世代に語り継ぐことで、生き残った女たちは心の傷を癒していく。

「少女ジェーン」(台湾)

両親の離婚、幼児期のレイプ、家出、売春一。17歳の少女が歩いてきた悲しい道のり。

「村の女たち」(フィリピン)

地域の農業団体を政治組織に発展させた女たちの活躍。

「女性専用デスク」(スリランカ)

女性の警察官の助けを得て、搾取や暴力を正す道を探ろうとするスリランカの女たち。

PART 2 北米・南米

「風に向かって」(ペルー)

惨殺されてもなお、マリア・エレナは女たちの心と歌の中に生き、権利闘争の支えとなっている。

「パンとバラ」(カナダ)

“貧しさに甘んじてはいられない！” 変化を求めて前進するカナダの女性たち。

「ある黒人女性の場合」(アメリカ合衆国)

自らの文化を支えに貧困を乗り越え、多くの女性に道を開こうとするコーラ・リーの物語。

「私の一日」(コロンビア)

働く母親の戦争のような一日が、コミカルな早回しで描かれる。

PART 3 ヨーロッパ

「ザップ・アムステルダム」(オランダ)

人々でごった返すアムステルダム駅を舞台に、20世紀に生きる女たちの賑やかな一瞬を捕らえる。

「セカンド・ハーフ」(ギリシャ)

大人気のプロ・バスケット。男性のトップ・プレイヤーが億単位の年棒を稼ぐ一方、女性の一流選手は不当な扱いを受ける。

「ドイツの女たち」(ドイツ)

仕事か家庭か一。大学教授、バス運転手、銀行員のそれぞれが、ジレンマを克服する術を語る。

「チェルノブイリの余波」(ウクライナ)

放射能が、女たちとその家族の健康に及ぼした影響は、何だったのか？

「マイレは立ち止まらない」(フィンランド)

一心不乱に、しかもマイペースでクリエイティブな才能を発揮しながら、マイレは経済的成功を目指す。

「銃弾のない戦争」(スコットランド)

貧しい人々に、まともな住宅を一。母親は子どもたちの世界をゴミ溜めにするまいと奮闘する。

PART 4 アフリカ・オセアニア

「マオリの歌」(ニュージーランド)

パワフルな音楽と心揺さぶる歌詞が、マオリの女性を讃える。

「ママ・ルンゴウェ」(ザンビア)

地域に根差した活動家が、性差別と貧困の問題にメスを入れる。

「ヴァカー再発見の旅」(クック諸島)

遠い祖先の足取りをたどる歴史的な航海を通じて、ある女性が発見した民族の遺産。

「戦争と女たち」(ウガンダ)

内線に続く新政権樹立で、ウガンダの女性は政治的リーダーシップを握るチャンスを得た。

「捨てない文化」(カメルーン)

アイデアと手先に自信ありの女子学生が、洋服屋から集めた端切れをカラフルな作品に生まれ変わらせる。